

補助金活用と販促支援で 技術継承と海外展開が具現化

課題

技術力を活かした新製品で 海外に販路拡大したい

浄水装置および水処理装置の業界・市場で、30年以上の経験に基づく独自の発想と、差別化された技術・商品開発力をもつベーシック株式会社。

浄水器の国内市場はブリタ、三菱、東レなどの大手がひしめきあっており、既存市場、既存製品ではそう大きな売り上げ増は見込めない。そこで、かつては蛇口直結型が大半を占めていたが、近年市場ニーズの高まるポット・ピッチャー型や高機能携帯用浄水器市場への参入が不可欠となっていた。

同社には卓越した技術力・製品開発力があるものの、現在新製品の研究・開発を行っているのが高齢の経営者のみで、革新性のある携帯用浄水器の開発を今後も継続して進めていくためには、技術面の承継を早急に行う必要があった。

また、水事情の悪い東南アジアなど海外市場は国内以上にニーズがあるため、すでに開発している海外向け製品を、インド、シンガポール、ベトナムなどでも販売しようとしているが、ホームページや販促物の多言語化が課題だったことから、英語のできる営業スタッフを雇用して営業を強化、海外の販売体制を構築した。

こうした課題に対応するため、技術承継や新設備導入による生産性向上に向けて、瀬田商工会が支援を行った。

支援

認知度向上で 海外向け製品の販売強化

商工会では、補助金を活用して新製品の開発がスムーズに行えるよう支援した。ものづくり補助金で新規特許出願の流路構造と活性炭高機能複合材を用いた革新的浄水器の開発を行い、その後、小規模事業者持続化補助金で、未開拓市場参入にともなう低価格高機能殺菌フィルター付浄水器の開発、製品化を実現。売り上げ全体の10%向上に寄与している。

同社の強みは逆流洗浄機能をもった設計であり、ほとんどの開発品は国際特許を取得している。地震など災害時の飲料水支援に役立てるために緊急用浄水器として開発した「浄水自転車」はマスコミでも注目を浴びた。

平成29年には、「びわ湖環境ビジネスメッセ2017」への出展支援を行い、直結型・ピッチャー型・シャワー型製品で国内企業との取り引きを開始。年間1000万円程度の新



被災地などでの緊急用浄水器として開発した浄水自転車

規受注を達成した。海外ではインド企業からも合弁、会社立ち上げの申し出があり、海外市場での生産拠点と販売体制の構築が現実味を帯びてきた。海外への販売と業務の効率化を見据えた雇用も計画している。

今後継続的かつ効率的に研究・開発を行うために、スタッフが使えるCADシステムの導入も検討するなどしており、経営者が行ってきた研究開発をほかのスタッフも行えるように形式化し、生産管理ソフトを更新して生産性向上も狙う。

支援の経過

| 期間 | 支援内容 |
|---------|-----------------------|
| H26年5月 | ものづくり補助金の申請支援 |
| H27年5月 | 小規模事業者持続化補助金の申請支援 |
| H29年10月 | びわ湖環境ビジネスメッセ2017出展支援 |
| H30年4月 | 経営力向上計画、ものづくり補助金の申請支援 |
| 7月 | IT導入補助金の申請支援 |

会社概要

会社名：ベーシック株式会社
 住所：滋賀県大津市大江5-35-13
 電話番号：077-544-0875
 URL：<http://basiccoltd.jp/>
 代表者名：代表取締役 佐々木智
 創業年：昭和52年
 年間売上高：1億7462万円（平成29年）
 従業員数：役員3名、正社員3名、パート3名
 商工会名・担当者名：瀬田商工会・野田厚志